

隔月連載 第2回

## 植物たちのワイズユース

～植物をもっと活かすための知恵と技術～

## 地域景観への応用



辻井 達一 (つじい たついち)

勸北海道環境財団理事長

1931年東京都生まれ。59年北海道大学大学院農学研究科博士課程修了・農学博士。60年北海道大学農学部講師、62年北海道大学助教授、85年～89年北海道大学農学部附属植物園長（併任）、88年北海道大学農学部教授（農林生態学研究室）、95年北星学園大学教授、97年勸北海道環境財団理事長。国際湿地保全連合理事、日本委員会会長、釧路国際ウェットランドセンター理事等公職多数。

## 1 地域景観とは？

かなり前に地域計画と景観について持論を幾つか書いた（北海道の植物—ことに景観的に見た—学会会報No.749（1980）など）。

そこでは、ここ百数十年の北海道開拓が稲作の展開をターゲットとした、いわば温暖化指向のものであったのではないかと考えられることを述べた。函館市から七飯町へかけての黒松並木から始まって、大沼のいかにも日本的な風景、森町や八雲町の栗林、伊達市の市街地や有珠善光寺の境内など、明らかに本州の風景の延長である。もっと北や東北海道になるといやでも暖地の植物は無理になるが、それでも望郷的植え込みが、なおあちこちで見られる。札幌市の円山に杉が植えられ、さらに羽幌町にも杉植林が造られたのもそれだろう。厚岸町の愛冠岬あいかつぶにただの二本だが結構大きなブナが生えているが、それがどうして、誰が植えたのかはまだ分からない。

もう一つは画一化での傾向で、これはもっとひどい。さすがに大景観となると、そうは変えられもしないが、都市やその周辺部ではしばしばである。旭川市内で並木にナナカマドが採用されて評判になると、近隣の町村がすっかり真似をした。都市並木や町の木としての採用はナナカマドが旭川周辺で最も多い。

滝上町のシバザクラが有名になるとたちまち、あちこちで同じような植え込みが始まり、どこもかしこも時期になるとピンクの花で埋まる。チューリップが、となるとこれまた同様なことが始まる。

地域景観とは、それぞれの地域で、それぞれに形成されるからこそ地域景観ではないか。それは決してあえて異を立てる、ということではない。地域の植生を活かした、特徴を持った景観づくりこそがそれぞれの地域を特化するのに役立つ。



函館市・七飯町の松並木



十勝の針葉樹林



網走のジャガイモ畑

## 2 地域の植物をもっと活かそう

高速道路でなくても、車で視覚されるのはごく短い時間である。逆に言えば、ある植物群落が視認されるには相当のスケールが必要だ。お庭をゆっくり歩いて観賞するというのとはわけが違う。ここではちまちました植込みは似合わない。大きく、まとまったものが効果的なのだ。もちろんアクセントとして、あるいはアイストップ<sup>※1</sup>としての単木なり、目立つ植込みの存在効果はあるだろう。カナダのハイウェイで、大きな背景はもちろん針葉樹林だが、ドライブインの前庭に、数本の樹木が伐り残してあり、極めて効果的なアイストップになっていた。

低木でも数を多く、あるいは密集的に植えれば効果は大きい。昔からよくあったのはヤマツツジやエゾヤマハギの密植などだが、これは庭園でやっていたからその伝だろう。同じように後志・石狩地方ならタニウツギ、胆振地方ならカンボク、ハスカップ、網走地方

### ※1 アイストップ (eyestop)

人の注意を向けるように意識的に置かれたもの(造園用語)。

### ※2 エゾニュウ (蝦夷にゅう)

山地や海岸の草地などに生え、高さ3mにも達する大型のセリ科の多年草。

ならエゾノコリンゴなどを考えればいい。要は地域ごとの特徴を打ち出すことである。

方針が決まれば、それに沿って長期的に苗木の手当てを計画的に進めればいい。いきなり植物の名を持ち出して納入しろといってもできるものではない。それに、種類だけでなく数量のこともあるから、よほど計画的でなければならない。しかし、そもそも地域景観というのはこういうことの積み重ねなのだ。

今のJR、かつての国鉄では防風林、防雪林の担当部局があって、なかなか立派な鉄道林を経営していた。ただ物理的に樹林を設けるだけでなく、要所には例えばエゾヤマザクラをさりげなく植え込むなど、なかなか洒落たこともやった。岩見沢近辺などにはそれがまだ残っている。列車も速くなって車中からのお花見の風情は遠のいたが、それでもドイツトウヒの防雪林に桜が見えるなど、いいものではないか。

道路でもそうしたアイデアが欲しい。道東、根釧原野の防風林にただのカラマツやトドマツだけでなくキタコブシやヤマモミジを混ぜておけば、春から秋まで楽しめるというものだ。何も木にばかり限ることはない。例えばオオブキなどでもいい。オオハンゴンソウ、海岸ならばエゾニュウ<sup>※2</sup>、オオハナウドなどの大形草本はどうか。偏見や既成概念にとらわれることはない。



針広混交林



エゾニュウ

### 3 地域の区分

北海道は広い、というよりも地域によって条件が異なる。だから全部同じパターンで考えるべきではない。そもそも景観を地域的に打ち出そう、というのだから同じパターンでは意味があるまい。

ごく大きく分けて、①渡島半島などの道南、②後志から石狩、空知、上川まで、③胆振、日高などの太平洋沿岸、④十勝、⑤根釧、⑥オホーツク沿岸、⑦留萌から北の日本海沿岸などに区分されるのではないか。

これは植物分布を考えてのことでもあり、同時に気候的に積雪の多少、日照率などを勘案してのことでもある。

土壌特性、例えば火山灰地や泥炭地なども考えなければなるまいが、それはほとんど全域にわたって分布するから、それぞれの特性が大きいところで考慮すればよいだろう。

地域区分を立てたからといって、その境界を過ぎたらすべて変えるなどということはいしなくていい。道路景観が突然、変わってはおかしい。例えばある盆地を過ぎたら景色が変わる、とか、山地から海岸へ出たら（そうすれば植生が変わるのが普通だから）そこで区切りを付ける、などというやり方でいいはずだ。

景色がいつまでも変わらない、というのでは眠気が差すばかりだろう。シベリア鉄道でも、カナダ横断鉄道でも、はたまたアメリカのハイウェイでも何時間も同じ植生を見るばかりでは、日本の景色に慣れた身にはつらい。

しかし、そうかといってめまぐるしく変わるというのも忙しくてよくない。適度のアクセントが欲しい。それは舞台の転換を想わせるものがある。あるいはそれこそ“道路の演出”ではないか。道路を計画するときにそうした演出まで計算に入れるべきではないか。植生はその大道具なのだと考えればいい。

大きな景観としては例えば宗谷丘陵に見られるような周氷河地形などもいい。もっともこれは空中からでなければ十分には見られないが、一部は道路からも遠

望できる。例えば豊富バイパスからとか、沼川付近などだ。もちろん、宗谷岬付近などもそうで、これは大道具というよりも背景としての効果が大きい。

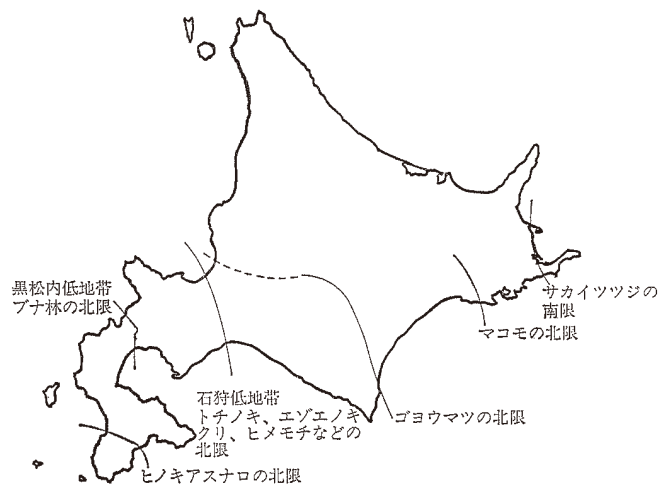


図1 北海道の植物分布界

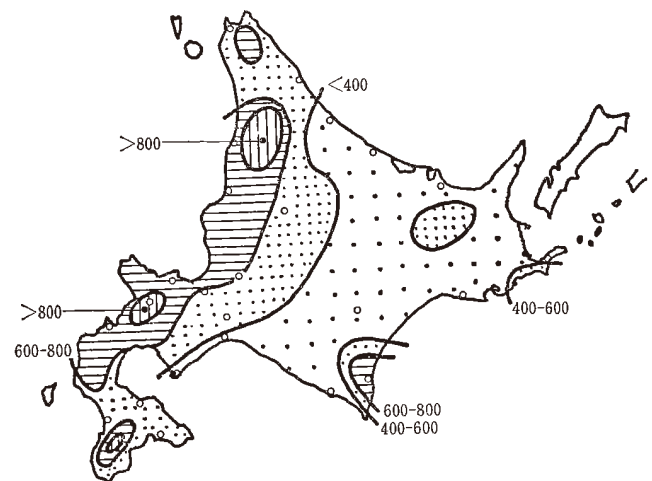


図2 北海道の寒半期(11月～4月)の降水量分布(m/m)

出典：八木健三・辻井達一編著『北海道－自然と人』築地書館(1985)



宗谷丘陵の周氷河地形。指をそろえたようななだらかな独特の景観

#### 4 大きな景観・それは大きな絵画だ

それぞれの地域の道路景観要素のいいものは残し、あるいは増やし、強調する。悪いものは減らし、整理し、排除する。そうすれば、結果として優れた地域道路景観が生まれるはずである。

もっともここでいう、いいものとか悪いものとかいうものを見極めることができなくてはならない。審美眼という大げさだが、工学的なものだけでなく、美学的素養も必要だろう。それに加えて植生について、もう少し広く言えば生物的な面の知識が欲しい。難しければ、そういう分野の助けを求めればいいのだ。

カナディアン・ロッキーのバンフ国立公園<sup>※3</sup>を通ったことがあった。自分で運転するのではなくて友人任せだからのんきなものだ。シンプルだがなかなか要領を得たガイドマップがあって、それと見比べながら景色を眺める。まことに気楽なのだが、ふと気が付くと実によく実際の風景と合っているのだ。

まあ、それは当たり前ではあるが、それにしても地図の表記と現場の森林とがぴたりと合っていたのは見事であった。「次のカーブを過ぎると左手に沼、右手にはタマラック（アメリカカラマツ）林が出てくるはずだぜ」と友人に話しかける。カーブを曲がると本当にそのままの風景が開けた。地図は本来、こうでなければならぬし、景色もかくあるべし、という気分だ。地域景観というのは、こういうものではないかと思われる。

景観は大きな絵画だ。絵画は描き手の思想を表現する。あるいは表現するために描かれる。地域の心を、特徴を伝えるためには、道路周辺の植生は効果を考慮して配置することが必要だろう。大きなキャンバスに壮大な絵を描くつもりで掛かってはどうか。そして要所にはきらりと光るような小品を並べることだ。

阿寒横断道路などでは巧まずして見事な風景が形成されているのが見られる。これは人が計画的に構築したものではなくて、道路ができた後で自然が自ら修復したものだだろうが、そうした自然修復も計算の内に入

れておけばいいのである。いったん、牧草でカバーした法面にササがうまく入り込んで笹原に置き換えられた例などもこれにあたる。考えてみれば見事な郷土種による地域景観の完成ではないか。



バンフ国立公園の景観



ジャスパー国立公園の景観



阿寒横断道路の景観

##### ※3 バンフ国立公園

カナダのアルバータ州にある国立公園。総面積6,641km<sup>2</sup>。ジャスパー国立公園とともに、世界遺産に指定されている四つの国立公園、三つの州と公園で構成されるカナディアン・ロッキー山脈自然公園群に属する。

##### ※4 ジャスパー国立公園

カナダのアルバータ州にあるカナディアン・ロッキー最大の国立公園。総面積は10,878km<sup>2</sup>。バンフ国立公園の北に位置する。